

インターバンクの声（2015年9月4日）

中国市場の休場の影響もあってアジア市場の動きは限定的だった。その後のロンドン市場も欧州中央銀行（ECB）理事会が控えていたこともあり出だしは静かだったが、ドラギ総裁が量的金融緩和の拡大に意欲を見せたことでユーロが対ドルで100ポイント以上、対円では2円近く下落する反応を見せた。原油価格の下落に起因するインフレ率低下、中国経済の見通し悪化を指摘、新興国の景気減速にも警戒感を示したが、具体的な資産買い入れの規模拡大やペースの変更に関する議論はなかったようだ。今後のユーロ圏経済が劇的に改善傾向にでも戻れば別だが、これで2016年9月末まで予定されている資産買い入れプログラムが間違いなく続き、延長の可能性も高まったかも知れない。どうもユーロは再び買い難い通貨に逆戻りしそうだ。ドル円相場もこれまでの円安地合いがひと段落しつつある気配もあり、以前のようにユーロの下落主導によるユーロ円の軟化ともなれば、ドル円相場への影響も大きくなるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。